平成 18 年度　秋期　情報セキュリティアドミニストレータ試験　採点講評

午後 I 試験

問 1

問 1 では，認証機能について出題した。認証の基本的な機能については，おおむね理解されているようであったが，認証機能の具体的な使い方や認証機能の不備から実際の現場で発生する問題点などの理解が不十分な受験者が多かった。

設問 1(1) は，ハッシュ化したパスワードの照合方法に関する設問であり，正答率は高かった。しかし，このハッシュ化して保存したパスワードのリマインド方法を出題した設問 1(3) の正答率は低かった。ハッシュ化したパスワードから元のパスワードを復元することはできず，“入力されたパスワード”を送付することができないことは，情報処理技術者の基本知識として理解しておいてほしい。

設問 3 (1) は，正答率が低かった。メルマガサーバ以外で起こる問題を答えた誤った解答や，“他人が勝手に設定を行うことができる”のように問題文を抜き出しただけの誤った解答も多かった。情報セキュリティアドミニストレータは，セキュリティ機能の不備についての一般的な知識の習得にとどまることなく，情報システムに連鎖的に引き起こされる問題まで考察できる能力を習得してほしい。

問 2

問 2 では，PC の持出管理について出題した。全体としては正答率が高く，おおむね理解されているようであった。

設問 3 (3) は，正答率が低かった。“HDD をもたないシンクライアントである”と本文中で述べているにもかかわらず，“HDD 内のデータを暗号化する”や，“TC 端末の HDD にデータを保管しない”など，本文の設定上あり得ない解答が散見された。

設問 4 も正答率が低かった。“TC 端末がウイルスに感染する”といった起こり得ない事態や，“TC 端末はインターネットに接続しない”など，本文で設定した業務が成り立たなくなるような誤った解答が散見された。本文を理解した上で解答するように心がけてもらいたい。また，これらの誤った解答は，シンクライアントに関する知識が不十分であることの結果でもあるので，このような新しい技術についても，是非理解しておいてもらいたい。

問 3

問 3 では，ネットワークの運用とセキュリティについて出題した。基本的な計算に関する設問以外の正答率は低く，ネットワークの運用状況を正確には把握できていないようであった。

設問 1 (3) は，正答率が低かった。ワーム F の感染方法と L3 スイッチの設定から，Seg_0 のファイルサーバが最初に感染したことが分かる。その上で，IP アドレスの第 4 オクテットが 254 で，利用可能な第 3 オクテットの最大値が正答となる。この設問のように IP アドレスの計算とセキュリティ事象の考察を組み合わせて考えるなどもう一歩踏み込んだ知識や能力が不足している受験者が多かった。情報セキュリティにおいて，ネットワークは主要な技術の一つであるので，基礎的な事項については，応用できるよう理解しておいてほしい。

設問 3 では，視点の切替えを必要とする設問とした。すなわち，ネットワーク機器や LAN ケーブルなどへの物理的な対策が実施されている場合に，視点を変え，それら以外で起こり得るリスクとして，既に接続されている正規のホストを悪用する具体的ケースを問うものであった。

問 4

問 4 ではファイル交換ソフトにおける情報漏えい問題について出題した。ファイル交換ソフトの問題は，プライベートな利用での事例が多いが，テレワークを題材とすることで，企業の活動における課題とした。問全体としては正答率が高く，おおむね理解されているようであった。

設問 2 は，正答率が低かった。K 社は L 社にメールサーバの運用を委託しているが，そのままのサービス内容では，本問で議論しているテレワークを K 社が行う際に，暗号化ファイルを送受信する仕組みの第 2 案に支障が起こる。それを見つければ正しい解答に至るはずなので，しっかり本文を読み取るようにしてもらいたい。

設問 3 (1) と設問 4 は正答率が高かったが，個人の所有物に対する規制や，委託先に対する介入など，ほかの法令への抵触が懸念される解答が散見された。情報セキュリティアドミニストレータは，セキュリティレベルを高めることができるだけでは不十分で，企業活動や社会通念を踏まえて適切に判断できることが必要である。情報処理技術の基本はもちろん，法令等の基本知識についても身に付けていくよう心がけてもらいたい。